

刊行の辞

大東文化大学経済研究所長 古屋 核

大東文化大学経済研究所は、経済学部附置の研究所として33年前（1987年）に設立され、研究報告書としての本誌も第33号の刊行を迎えることとなりました。

本号では、本年度（2019年10月25日）開催の第39回経済シンポジウムにおける報告論文1篇、所内セミナー（2019年6月28日、10月11日）での岡村宗二研究員の報告論文と関連する論考3篇、研究員からの寄稿論文3篇、の計7篇を掲載しています。

本年度の経済シンポジウムは、NPO法人東アジア政経アカデミーとの共催で、国際シンポジウムの形式にて開催しました。報告者として呉寄南（上海国際問題研究院）、名嘉座元一（沖縄国際大学）、郭明鴻・黄輝慶（逢甲大学）、高安雄一（大東文化大学）、朴賛基（木浦大学校）の6氏、また討論者として前泊博盛（沖縄国際大学）、貫隆夫（武蔵大学）、渡部茂（前・大東文化大学）の3氏を迎え、「21世紀における東アジアの国際化」というテーマに関し、様々な角度から興味深い報告・議論が得られました。シンポジウムの企画・運営に御尽力いただいた東アジア政経アカデミー代表の永野慎一郎氏、報告者・討論者の先生方、池田剛土研究部会長、学部事務・研究所スタッフの方々にこの場を借りて御礼申し上げたいと存じます。

本研究所が設立された1987年から約30年間、日本・世界ともに経済情勢は大きく変化し、将来を見通すこともますます困難になっています。本研究所では、今後も社会の要請に応え、学内外にその存在を示すべく、実のある研究事業を推進していきたいと考えています。皆様方の尚一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。